

令和5年度
第3回匝瑳市介護保険運営協議会
第2回匝瑳市地域包括支援センター運営協議会

議事録

日時	令和5年12月22日（金） 13:30～14:50
場所	市役所議会棟第2委員会室
出席委員 (50音順・ 敬称略)	江波戸美代、大関典夫、川名綾、五木田善孝、小関敬人、佐々木寛子、椎名房子、鈴木幸一、塚本繁雄、英香代子、平山新治、守一浩
欠席委員 (50音順・ 敬称略)	熊切茂、澁谷晴夫、平野茂、福島俊之
事務局	高齢者支援課 鈴木課長、倉地副主幹、向後主査、椎名主査 株式会社名豊 谷貝業務課長補佐
次第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 (1) 地域包括支援センターの事業評価について (2) 地域包括支援センターの機能強化について (3) 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について (4) パブリックコメントの実施について 4 その他 5 閉 会

資料	(資料1-1) 地域包括支援センターの事業評価について (資料1-2) 令和4年度 地域包括支援センター自己評価一覧 (資料2) 地域包括支援センターの機能強化について (資料3) 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画(案)
----	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 開会

事務局が開会宣言を行った。

事務局が資料の確認を行った。

事務局が委員の出席状況を報告した。

事務局が会の成立を報告した。

2 あいさつ

平山会長があいさつを行った。

3 議事

(1) 地域包括支援センターの事業評価について

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

会長：ここの評価は基本的な流れであれば、サイクルを回すということが本来の姿である。PとDがあり、Cチェックという行為でこの事業評価をし、その後アクションA、これが下の方、行政評価結果という中に一部書かれている。先ほど説明で総括の評価結果は簡単になっているが、全体像で今回「いいえ」、「はい」の関係が、ある程度多かった場合、項目を見て理解することが難しいため、総括的な内容があるとよいのではないかと。それに対して、どのような指導助言を行ったか見えない。こちらとして開示できない部分があるものまで求めることはしないが、ある程度「はい」に持っていく場合に、どのような方法でそれを行っているのか非常に見えないことと、直営の場合、部署は同じと思われるが、評価する側とされる側が同じような場所にいた時、どのような評価方法なのか。自己評価ならよいが、行政評価の位置づけにした場合には、ここはどのような立場で、具体的に言うと支援班が地域包括支援センターを評価したのかということがわかれば教えていただきたい。

事務局：総括的な部分では話をしたが、项目的なところで何点か挙げると、資料1-2で両方も「いいえ」になっているところがある。1ページ、No.31「消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。」は、聞き取り調査を行った結果、例えば、消費生活相談員には情報共有する取組はあり、

民生委員にも月一で報告する機会があるという。しかし、介護支援専門員、いわゆるケアマネジャーに対し情報共有する機会ができていないため、「いいえ」となっている。こちらについては、情報共有する機会をつくる指導を行った。裏面No.48「自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市町村から示された基本方針を、センター職員及び委託先の居宅介護支援事業所に周知しているか。」とNo.50「利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか。」については、市町村いわゆる支援班から地域包括支援センターに対し、基本方針や支援の手法を示すこととされている。この部分は支援班から今まで示すことができていなかった部分であり、支援班としても、来年度に向けきちんと示せるようにして行くと伝えた。No.47「センター主催の地域ケア会議における検討事項をまとめたものを、市町村に報告しているか。」は、今後そのようなことがあれば文章で報告するよう指導した。直営の地域包括支援センターに対して、どのような聞き方をしているかは、支援班が匝瑳市の立場として、地域包括支援センターを指導するという事になっているため、支援班が直営の地域包括支援センターに対して聞き取りを行った。

会 長：今後も評価をし、その結果を次の年に生かしてほしい。特に、今、令和4年度のもののため、評価対象が3月で終わり半年以上経っている。令和5年度も終わってしまい報告するタイミングが無いからだと思われるが、どのように令和5年度に活かしているかというレベルまで踏み込めればよいと思う。

(2) 地域包括支援センターの機能強化について

事務局が説明を行った。

<質疑応答はなし>

事務局： 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今後も地域包括支援センターの役割が重要となっていることから、その機能を強化し、後方支援できる体制が必要。基幹型地域包括支援センターがその役割を果たし、効果的・効率的な運営が出来るよう努めていきたい。

(3) 第9期匝瑳市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（案）について

事務局が第1章から第4章について説明を行った。

<質疑応答等>

会 長：網かけが62ページと65ページにあるが、実際には特に意味があるわけではなく、今後変更する予定があるなどの意味で網かけをしているわけではないのか。

事務局：記載を検討して行く中で、変わったところを、網かけ表記とさせていただいている。

会 長：見える文字が実際の文字になり、網かけは外れるということによいか。

事務局：最終的には外れることになる。

会 長：64 ページ⑦文章内に、「下表」とあるが、これは何を指しているのか。成果目標の4項目を指していると思うが、これで下表を指しているといえるかわからないため、確認させていただきたい。

事務局：会長からのご指摘どおり、ページ自体も変わっているため、「下表」という言葉が適切ではなく、「次表」という記載に変えることを考えている。それで意味としてつながると思うか。

会 長：私が決めることではないが、理解した。

実際のパブリックコメントをするにあたり、直していただきたいところが2点ある。49ページの成果目標のセル幅の調整をしていただきたい。令和7年度と令和8年度を見比べるとわかると思う。そして、59ページから60ページ、実施事業の文字フォントが小さいため、合わせる事ができるのであれば、変更し、パブリックコメントに入っていただきたい。

事務局が第5章、第6章について説明を行った。

会 長：68 ページ「各サービス見込量の算出」は、地域包括ケア「見える化」システムで推計しているとのことだが、第8期はコロナをもろに受けた期であり、対面しづらいなど特異的な部分により、サービス量の過度な変更があった可能性のある中で、この推計をされたと思うが、そのようなことを配慮したのか、そのまま元どおりの数値で推計を進めたか、教えていただきたい。

事務局：基本的にこの三年間、確かに減ってきているということと、詳細によってはいろいろ変わっているが、基本的に地域包括ケア「見える化」システムで直接してしまうと、過去の状況から踏まえてということである。ただ、その状況だと、急速に減少してしまうため、そのあたりは現状を見据える。来年から急激に増えることはないと思われるため、ある程度、今年度を基準とし、現状を踏まえて補正をしながら地域包括ケア「見える化」システムから出す。ある程度、コロナ禍の利用状況を踏まえ、今年度からどのように変わっていくのか、サービスによって現状に合わせた補正という形になっている。

会 長：保険給付費の見込額の総額が、第8期より減っている。そのような割合で、実際に基準額が減るかどうかは別として、総サービス量自体が国の話で言うと、介護の件数費1.59のアップなどという実際数字がある中で給付費自体、率が2割、本人負担部分のあまりを保留するというようなことを今回は変更なしと聞いている。最終的にパブリックコメントに行くとき、ここで今日のこの話をするが、ここには多くの出ていない数字がある。非常に主要な数字が検討中とあり、示されていない。そしてスケジュールより、年明けにパブリックコメントに入るということは、この会議は開かれない。当然のことながら、開かれないままパブリックコメントに行くとなった場合の、そのあたりの取扱いはどうなるのか。実際にこの数字は、どこでどのように、極端な話、この匝瑳市介護保険運営協議会を経ない

まま、内部の決裁でそのままパブリックコメントに行くという流れしか、今の日程上できないと私は読みとれるのだが、そのように今予定しているのであれば、私に説明していただきたい。

事務局：どうしても国の基準が出ないという中で、出せないため、概ねそのような形でスケジュールはさせていただきたい。

会長：実際には国の基準が出ないため、スケジュール上できないと思われる。90ページ「保険者機能強化推進交付金等の活用」と書かれているが、この中の文言を見ると、自立支援、重度化防止等に関する取組の交付金ということで、前回、最初の資料の中に、苦しい数値を見たが、このところで、できるだけ点数を稼いでいただき、交付金を少しでも上げていただく。そして、先ほど減ったという話をしたが、介護予防がうまくいっているから減っているというような表現もできる。それをどこで分析するかという問題もあるため、できるならば、予防の段階で介護、要介護認定者の数が一人でも減るような努力をしていただきたい。それと、99ページ、一番上「地域支援事業」の下、ここに空白行が一行あるため、消していただきたい。

(4) パブリックコメントの実施について

事務局が説明を行った。

<質疑応答等>

会長：検討中とは年内あたりに決めたいということで、5日までにすべて数値が入った状態でパブリックコメントをすると考えてよいか。

事務局：前回のパブリックコメント時も、数字が入らない状況で実施をした。なかなか国の基準が出ないため、入れられないことをご承知おきいただきたい。

会長：パブリックコメントでは基準額が明示されない状態ですということよいか。

事務局：金額自体の記載は今回の素案と同じような形になると思われる。

4 その他

事務局：次回の運営協議会については2月に開催をさせていただきたい。日時や場所については、追って連絡をさせていただきたい。

5 閉会

事務局が閉会を宣言した。